

平成29年度 血液事業概要

あゆみ

第67号 平成30年7月

目次

所長あいさつ	2
平成29年度 新聞記事	4
沿革	6
第41回日本血液事業学会総会 発表演題	13
組織体制	14
献血の概況	16
献血推進の概況	18
骨髄ドナー登録事業	21
検査・製剤の概況	22
供給の概況	24
医薬情報活動の概況	25
統計資料	26
平成29年度 表彰	32
平成29年度迄の献血記録	34

所長あいさつ



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様、また、これを支えてくださる献血協力団体、ボランティア、県・市町村、医療機関及び関係各位の皆様にご支援協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

また、平成29年度においても皆様のご協力のもと、県内の医療機関からの輸血用血液製剤の要請に不足することなく供給することができました。重ねて御礼申し上げます。

さて、私は4月1日から群馬県赤十字血液センター所長に就任いたしました。3月末までは群馬県立小児医療センターに23年近く勤務し、最後の4年間は病院長を務めておりました。病院勤務時代は血液センターには大変にお世話になりました。

小児医療センターは群馬県内および周辺地域の小児三次医療と総合周産期医療を担う病院であり、重い疾患を持つ乳幼児や妊産婦さんが数多く入院されています。三次病院としてPICUやNICU、無菌室などの設備は整っていますが、血漿交換、人工心肺、交換輸血、血液浄化などの高度な医療を実践するため、あるいは緊急の大出血や骨髄抑制の際にはどうしても多くの血液を必要といたします。「愛の献血」による血液製剤の安定的な供給が、多くの命を救い、我が国の医療を支えているといっても過言ではありません。私たちは血液事業の社会的使命と重要性を常に認識しつつ、医療に貢献したいと考えております。

輸血用血液製剤の多くは高齢者の医療に使われており、約85%は50歳以上の方々です。一方で、献血いただいている方の約70%は50歳未満の方々であり、若い世代の方々が輸血医療を支えています。しかし、日本は少子高齢社会を迎えており、若年層の献血者数は減少傾向にあります。群馬県赤十字血液センターでは、より多くの若年層の方々が献血にご

協力いただけるように、県内各高等学校での献血及び献血セミナーの実施だけでなく、小・中学生を対象とした「親子献血教室」、「献血セミナー」や献血疑似体験できる「キッズ献血」を開催し、将来の献血者育成も行っております。

一方、医療機関からの赤血球製剤の要請のうち約95%は400mL献血由来製剤です。これは、輸血を受ける患者さんの負担軽減や副作用発生リスク低減のためですが、平成29年度の群馬県における全血献血の400mL献血率は94.8%であり、おおむね医療機関からの要請にお応えすることができました。医療機関への血液製剤の供給の取り組みにおきましては、医療機関からの要望に適切に対応できるよう、安全な輸血用血液製剤の安定供給と医療機関への情報提供等を行い、適正使用の推進を図ってまいります。

今後も職員一同、なお一層の取り組みを進め、より安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け引き続き努力してまいりますので、皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに平成29年度の実績をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

平成30年4月
群馬県赤十字血液センター
所長 丸山健一



献血への協力を呼び掛ける学生

**サポーター
献血に協力**
大学生が呼び掛け

**ときめき
ザスパ**

「献血応援ベシヤルマ」Jのザスパサツ群馬が愛媛FCと対戦した前橋市の正田醤油スタジアム群馬に、県赤十字血液センターの献血ブースが設けられ、サポーターが協力した。県青年赤十字奉仕団の団員など大学生9人が献血をPR。時折強くなる雨にも負けず、雨具姿で（献血）400が（に）協力へささい」と呼び掛けた。群馬大3年の林佑美さん20は「特に若い人協力してほしい」と話した。

ザスパのマスコット「湯友」や、献血推進キャラクター「けんげんちゃん」も登場。サポーターは記念撮影を楽しんだ。

試合前に献血した前橋市の間庭紗矢加さん26は「ホーム戦でつとめて負けないで、今日こそは」と勝利を願い、安中市の赤井英司さん49も「連勝がほしい」と意気込んでいた。

上毛新聞 平成29年5月14日(日)

生保県協会200人が献血

前橋 生命保険協会県協会(会長・伊藤尚志)日本生命保険群馬支社長)は17日、前橋市の同支社で「献血一斉活動」を行った。協会に加入する保険会社の役員ら約200人が、県赤十字血液センターのバスで献血した一写真。



一斉活動は年2回実施。県協会では日頃から献血への協力を呼び掛けている。同センターによると、輸血などに必要な血液を確保するため、県内では1日300人の献血が必要。担当者は「多くの県民に協力してほしい」としている。

上毛新聞 平成29年5月18日(木)

県央

前橋 県赤十字血液センター(林泰秀所長)は27日、前橋市の前橋献血ルームで「夏休み親子献血教室」を開いた。小学4、5年生の親子1組が人に見学や体験を通じ、献血について理解を深めた。

親子は看護師から血液濃度を測る事前検査の説明を受けた後、献血ルームのベッドに横たわり献血の疑似体験をした。

写真
父親と参加した酒井祐太君(左)と前橋児童小5

献血の大切さ理解

親子27人が体験

年「は少し緊張した。困っている人の役に立つので、高校生になったら献血したい」と話した。親子は、血液の種類や血液製剤の製造を行う埼玉東松山市の関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へバスで移動。輸血用血液の製造工程を見学した。

教室は若者の献血離れを防ぐと、毎年開催している。今回で8回目。28日は太田市の太田献血ルームで開かれる。



上毛新聞 平成29年7月28日(金)



**1231の個人・団体
献血功労者表彰**

前橋 県献血功労者等表彰式が9日、前橋市の群馬会館で開かれ、献血運動の推進に協力した1231の個人と団体に表彰状と感謝状を贈った。厚生労働大臣表彰は明電舎太田事業所が受賞した。

反町敦副知事は「本県では毎年延べ8万人以上の方々に献血にご協力いただいております。多くの尊い命が救われている」とあいさつ。

受賞者に表彰状と感謝状を手渡した。県は日本赤十字社と共催し、7月8月の2カ月間、「愛の血液助け合い運動」を展開している。

上毛新聞 平成29年8月10日(木)

献血協力者への感謝と啓発を兼ねたイベント

26日、前橋市のけやきオーク前橋で開かれた。実際の献血を行ったほか、演奏会や健康測定を行い、来場者



大切に感じた献血模擬体験

買い物客に啓発イベント

献血協力者への感謝と啓発を兼ねたイベントが26日、前橋市のけやきオーク前橋で開かれた。実際の献血を行ったほか、演奏会や健康測定を行い、来場者

子ども向けには献血の模擬体験を実施。参加した青木一樹ちゃん(6)「同じ市西片貝町」は「ちよっと怖かったけど、ジュースがもらえてうれい」と笑顔。写真、母親のおおひさん(34)は「献血の大切さを感じてもらい、将来は協力してほしい」と話していた。

イベントは「献血感謝デー」として県赤十字血液センターが毎年実施し、9回目。

上毛新聞 平成29年11月28日(火)

献血減る冬 協力を 生保県協会

生命保険協会県協会(会長・伊藤尚志日本生命保険群馬支社長)は5日、前橋市の同支社前で献血一斉活動を行った。協会に加入する保険会社の役員約200人が、県赤十字血液センターのバスで献血をした。写真

同センターによると、集められた血液は県内の病院で使われる。一日に300人の献血が必要だとしている。担当者は「人の外出が少なくなる冬は献血が減る」と話し、協力を呼び掛けている。



上毛新聞 平成29年12月6日(水)

献血呼び掛けで 笠原さん感謝状

前橋 県赤十字血液センター(林泰秀所長)は8日、今月で退職する生命保険協会県協会の笠原良輝事務局長(60)＝写真右＝に感謝状を贈った。笠原さんは在職した6年間、会員企業に献血を呼び掛け、延べ6279人が協力した。

前橋市の同センターで贈呈式が開かれ、林所長が感謝状を手渡し、庄山隆事業部長は「1年間で平均千人。大変多くの動員をいただいた。リーダーシップに感謝したい」と謝辞を伝えた。笠原さんは亡くなった妻が生前に多くの輸血を受けたことを明かし、「恩返しのためでやってきた。後任にも引き継いでいく」とほほえんだ。



上毛新聞 平成30年3月10日(土)

献血者数前年度割れへ 若年層対策が急務

県内の献血者数が伸び悩んでいる。県赤十字血液センター(前橋市)がまとめた本年度の献血者数(速報値)は21日時点で8万3267人と、2年ぶりに前年度を割り込む見通しだ。ピーク時を5万人ほど下回り、2006年度以降は8万人台で推移。特に10代をはじめとする若年層の「献血離れ」が課題となっている。センターは将来の担い手となる高校生を対象に出前講座を開くなど対策を練るが、回復につながらず頭を悩ませている。

センターによると、献血者数は1985年度の13万人台をピークに減少傾向にあり、94年度に10万人を割り込んだ。ここ数年は8万人台が続く、2016年度は8万6600人だった。年度末は企業の新入社員や学校の春休みと重なるため毎年苦戦する傾向にあり、本年度の大きな伸びは期待できない。年齢別で見ると16〜19歳が5474人と、過去5年間で最も多かった13年度の8645人から3割以上減少する見通し。15年度以降は5千人台で推移しており、底上げが急務となっている。

こうした状況を受け、センターは1こま45分間の出前講座を本格的に始め、学校側に開催を呼び掛けている。本年度は小学校でも開いたが、高校に限れば70校中5校にとどまる。県教委は「必要性は理解しているが、授業時間が限られており、性教育や薬物乱用防止に割く時間が多くなっている」と分析する。

日赤は今月上旬までに、従来の「2007年には献血者数が約85万人不足する」との需要推計を見直し、「献血率が微増すれば、ほぼ賄える」とする新たな試算をまとめた。ただ、「あくまでシミュレーション」としており、若年層の落ち込みを懸念している。

センターが実施した献血に関するアンケートでは、若年層から「怖い」「よく分からない」「痛そう」との意見が寄せられた。担当者は「さまざまな機関に協力を仰いで、献血について知る機会を増やしていく必要がある。危機感も伝えていきたい」としている。

上毛新聞 平成30年3月25日(日)

沿革

●1962年（昭和37年）

- 8.15 県、市町村の援助により血液銀行を新築[建設面積 209.51㎡]
- 9. 1 初代所長 久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）
- 10.20 血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群薬第9472号）
医薬品製造業認可証認可となる（第8356号）
医薬品販売業認可証承認となる（第43号）
群馬県赤十字血液銀行の業務開始
移動採血車第1号（2ベッド）を整備
愛称を県民より募集し「(おおとね号)」と決まる
ABO式血液型（オモチ・ウラ）Rho 式血液型
梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）
O型力価測定（Low、High）実施



●1964年（昭和39年）

- 8.21 閣議決定（献血の推進について）
- 9. 肝機能検査（S-GOT）開始

●1965年（昭和40年）

- 2.13 血液銀行を血液センターに改称
- 8.13 移動採血車おおとね2号（3ベッド）を整備
- 8.16 第2代所長 吉野文郁就任

●1966年（昭和41年）

- 3.31 事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積 381.08㎡）となる

●1967年（昭和42年）

- 2.24 血液運搬車車庫を新築（45.37㎡）

●1968年（昭和43年）

- 3.26 移動採血車おおとね3号（2ベッド）を整備（採血車3台となる）
- 9. 4 移動採血車第1号を廃車（37年整備）（採血車2台となる）

●1969年（昭和44年）

- 3. O型力価測定廃止

●1970年（昭和45年）

- 1.24 開設以来延べ献血者10万人達成
- 9. 不規則抗体スクリーニング検査開始

●1971年（昭和46年）

- 4. 1 血液代金差額について国庫補助を受ける（昭61.3.31廃止）
- 4.15 群馬県交通安全保障協会より血液運搬車1台寄贈
- 7. 1 HBs抗原検査開始（SRID法）開始
- 9. 4 移動採血車車庫を新築（108㎡）

●1972年（昭和47年）

- 1. 1 免疫電気泳動法（IES法）にてHBs抗原・抗体検査を開始
- 3.23 移動採血車おおとね1号（3ベッド）を整備（採血車3台となる）

●1973年（昭和48年）

- 6.21 赤十字アルブミン20販売開始
- 11.20 移動採血車おおとね2号（4ベッド）を更新（40年整備）

●1974年（昭和49年）

- 4. 1 血液代金自己負担金給付制度開始（昭61.4月廃止）
- 9.24 成分製剤11品目の許可を受ける

●1975年（昭和50年）

- 1.15 はたちの献血キャンペーンはじまる
- 8.19 移動採血車おおとね3号（4ベッド）を更新（43年整備）
- 10. 梅毒検査緒方法よりRPR法に変更

●1976年（昭和51年）

- 10. 2 成分製剤2品目追加許可を受ける
- 11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より

献血運搬車 1 台寄贈

●1977年（昭和52年）

- 6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車 1 台寄贈
- 12. 1 物置を新築28.32㎡

●1978年（昭和53年）

- 3. 4 開設以来延べ献血者数50万人達成
- 10. 1 HBs抗原検査IES法よりR-PHA法に変更

●1979年（昭和54年）

- 11. 1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
- 11.26 移動採血車おとね5号（5ベッド）を整備（採血車4台となる）

●1980年（昭和55年）

- 3.26 検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14㎡）
- 7. 肝機能検査S-GOTよりS-GPTに変更
- 10. 1 献血登録制を始める

●1981年（昭和56年）

- 5. 7 生化学的検査機器ACA6008Nを導入
- 6. 2 抗HBs人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
- 9. 1 生化学的検査結果の異常者への通知を開始
肝機能異常者でHBs抗原陽性者へ通知を開始
- 12.18 日本石油より献血運搬車 日産 セドリック（ミスターセイフティー号）1 台寄贈

●1982年（昭和57年）

- 4. 1 献血手帳の一部改正となる（供給記録欄を削除）
生化学的検査結果全員通知を開始
- 8.27 移動採血車おとね1号（4ベッド）を更新（47年整備）
- 9. 1 HBs抗原検査結果陽性者に通知を開始

●1983年（昭和58年）

- 8. 9 開設以来延べ献血者100万人達成

●1984年（昭和59年）

- 3. 8 血液製剤1品目（分画プラズマ）の製造許可を受ける

- 4. 5 赤十字アルブミン50供給販売開始

- 7.24 移動採血車おとね3号（4ベッド）を更新（50年整備）

- 12.20 県、市町村の補助を受け血液センターを新築移転（建物面積2,660.07㎡、車庫480㎡、物置7.2㎡）

- 12.24 医薬品製造業許可第8581号を受け業務開始
血液センター採血業許可証 厚生省収薬第34214号
成分製剤2品目の追加製造承認を受ける



●1985年（昭和60年）

- 3.28 HBワクチン用製剤2品目追加製造許可を受ける
- 7.30 移動採血車おとね6号（4ベッド）を整備（採血車5台となる）
- 3.31 国庫金による血液代金給付制度廃止

●1986年（昭和61年）

- 4. 1 採血及び供血幹旋業取締法施行規則の一部改正（400mL・成分献血が導入）
第3代所長 藤井佐司就任
群馬県献血推進員2名設置
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA6008NよりACA8000へ）
- 9.12 移動採血車おとね2号（4ベッド）を更新（48年整備）
- 9.16 多目的血球計数装置E-4000整備
- 10. 1 HTLV-I抗体検査開始（PA法）
- 10.16 HIV抗体検査開始（ELISA法）
- 11. 6 成分採血装置V50整備し成分採血を開始
- 12.18 血液検査（血算）サービス開始
- 12.23 移動採血車おとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）

沿革

●1987年（昭和62年）

- 7.31 開設以来延べ献血者150万人達成
- 10. HIV抗体検査 ELISA法よりPA法に変更
- 10. 7 プラズマコレクターシステム整備

●1988年（昭和63年）

- 1.21 自動血液型判定機（グルバマチック2000システム整備）
- 5. 1 献血者自己申告制度（HIV）開始
- 9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬車 トヨタ コロナ（大鵬号）1台寄贈

●1989年（平成元年）

- 1. 8 移動採血車おとおね5号（5ベッド）を更新（54年整備）
- 2.10 神戸義二氏より献血運搬車カローラ（神戸号）1台寄贈
- 3.15 成分採血装置CS3000整備
- 3.31 登録・パーソナルコンピュータ（NEC 5200）整備
- 12.27 HCV抗体検査（ELISA法）、HBc抗体（HI法）開始

●1990年（平成2年）

- 3. 6 成分採血装置オートフェレーシスC整備
- 5.21 オープン献血実施
- 6.25 バクスター社より器材運搬車 トヨタ ハイエース1台寄贈
- 10. 8 移動採血車（おとおね6号）成分採血併用型に改造し採血車での成分採血を開始
- 12. 1 コンピュータトータルシステム（NEC）整備
- 12.20 オープン採血用成分採血機材運搬車（コースタービッグバン）整備

●1991年（平成3年）

- 3.11 成分採血装置NDP整備
- 4. 1 凝固因子製剤用原料血漿確保始まる（50万L）
- 9.16 4週6休制施行実施
- 9.30 開設以来延べ献血者数200万人達成
- 12.25 群馬県骨髄データセンター業務開始

●1992年（平成4年）

- 1.21 赤血球M・A・P（日赤）製造許可を受ける
- 1.31 HCV抗体検査ELISA法からPHA法に変更

- 3. 1 国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始（クロスエイトM250、500、1000）
- 6. HCV陽性者通知開始（通知基準による）
- 12. 3 赤血球M・A・P（日赤）製造開始
- 12.19 移動採血車おとおね1号（4ベッド）を更新（57年整備）

●1993年（平成5年）

- 2. 1 新登録者カード発行
- 4. 1 群馬県輸血懇話会設立
- 5. 1 成分採血装置ヘモネティクスMCS整備
- 10. 1 高崎出張所を設置（高崎熱血倶楽部）イーストタワービル1階に開設
- 10.15 移動採血車おとおね7号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）

●1994年（平成6年）

- 2.27 群馬県献血フェスティバル開催（伊勢崎市民文化会館）
- 3.28 4週8休制度施行実施
- 5.18 血液X線放射線照射装置（MRB-1520A-TV）整備し依頼による照射血液供給を開始
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA8000より日立7250へ）
- 9. 1 コンピュータ全国統一センターシステム（NEC）整備
成分採血装置ミニオートフェレーシスC整備
- 11. 7 移動採血車おとおね3号（4ベッド）を更新（59年整備）

●1995年（平成7年）

- 6. 1 自動感染症検査機器PK7200を整備

●1996年（平成8年）

- 3.28 検診車の整備
- 4. 1 第4代所長に松山四郎就任
第3代所長藤井佐司名誉所長に就任
- 6.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 スバル インプレッサ1台寄贈
- 9. 1 献血者全員の試験官方式による検体保管開始
- 9. 3 採血番号ラベルシート（IDカード）10桁に変更
- 9.26 開設以来延べ献血者数250万人達成
- 10. 出庫可否判定における検査履歴照合開始
- 11.30 お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車

三菱 レグナム1台寄贈

●1997年（平成9年）

- 1.30 移動採血車（お年玉付郵便葉書寄付金）おとね6号（4ベッド）を更新（60年整備）
- 3.13 移動採血車おとね2号（4ベッド）を更新（61年整備）
- 4. 1 医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正（2部1データセンター9課1出張所17係）改組
- 9. ヒトバルボウイルスB19抗原検査の評価試験開始
- 10. 1 職員定数100名となる
- 12.28 血液X線照射装置（MBR-1520A-TM）を追加整備（2機となる）

●1998年（平成10年）

- 2. 1 梅毒検査RPR法よりTPPA法に変更
- 3.19 オープン献血会場で血小板採血を開始
- 4. 1 週休2日制実施
職員定数105名となる
- 7. 1 放射線照射血液が承認され薬価により供給開始（全血、赤血球M・A・P、濃厚血小板）
- 9. 1 前橋出張所（前橋ハートランド）大同生命前橋ビル1階に開設
- 12.21 放射線照射血液が追加承認され供給開始（洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血）

●1999年（平成11年）

- 1.26 沖電気工業より保冷庫付血液運搬車寄贈
日産 AD マックスバン保冷庫付
- 2. 1 原料用血漿について当日以外の服薬者よりPPPのみの採血始める
- 2.26 移動採血車おとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 5 前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア1台寄贈
- 4. 1 採血基準の改正により献血年齢69歳まで引き上げとなる
- 5.12 統一システム全国献血者一元管理に移行となる
- 6. 2 群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター1台寄贈（創立20周年記念）
- 9. 1 核酸増幅検査（NAT）開始

●2000年（平成12年）

- 1. 1 HTLV-1抗体検査陽性者に通知開始
- 2. 1 核酸増幅検査 500本プールより50本プール検査に変更
- 2.29 県の助成を受け血液センター1階部分を全面改修（供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設）、一部増築
- 3.17 ヒトバルボウイルスB-19抗原検査正式導入となる
- 5.16 NAT済み血小板供給を開始
- 7.26 群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内11市長に献血推進メッセージを届ける（28日まで）
- 8.28 血液センター増築及び改修工事開始
- 10. 3 検診車整備 日野 リエッセⅡ
- 11.26 高崎出張所開設以来延べ献血者10万人達成

●2001年（平成13年）

- 2. 移動採血車おとね9号（4ベッド）整備（採血車7台となる）
- 3.30 県の補助を受け増築及び改修工事竣工（1,746.58㎡を増築し、総延べ床面積4,406.65㎡）となる
- 4. 1 第5代所長に大月邦夫就任
- 5.22 HCV抗体検査、リエントリー開始
- 7. 3 血液センター増改築竣工記念式典
- 8. 6 赤十字アルブミン25販売開始
- 12.28 開設以来延べ献血者数300万人達成

●2002年（平成14年）

- 2.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車
日産 ウイングロード1台寄贈
- 4. 1 太田出張所「太田YOU愛」を東毛学習文化センター前に設立
HCV抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により、HCV抗体検査陽性者希望者全員に通知を開始
- 4.10 太田出張所「太田YOU愛」東毛学習文化センター前に開設業務開始
- 7. 5 DONOR CARD集発刊
- 7.31 薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法の一部を改正され名称も「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変更され公布される
移動採血車おとね5号（5ベッド）を廃

沿革

車（採血車6台となる）

- 12.31 移動採血車おとおね1号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）

●2003年（平成15年）

4. 1 HbC抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始によりHbC抗体検査陽性者全員に通知を開始
6. 1 ホームページ開設
高崎出張所改修及び増設工事竣工（81.33㎡を増設し総延べ床面積283.37㎡）となる
- 6.13 献血者の献血歴の確認 遡及調査の実施（梅毒・HBV・HCV及びHIV）
10. 1 高崎出張所（高崎熱血倶楽部）10周年記念式典
- 12.12 高崎出張所開設以来延べ献血者15万人達成



●2004年（平成16年）

- 1.30 2ヶ月間（60日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 3.31 供給冷凍室（貯留保管用）増築工事竣工（46.15㎡を増築し、総延べ床面積4,452.8㎡）となる
- 6.20 第二次血液事業統一システム導入
- 8.15 献血後情報の対応手順の変更（平16.7.30付厚生労働省「輸血用血液等遡及調査に関するガイドライン」に基づき）
- 8.28 核酸増幅検査50本プール検査より20本プール検査に変更
- 8.31 90日間貯留保管済みFFPの供給開始
10. 1 献血者本人確認全国実施
- 12.28 120日間貯留保管済みFFPの供給開始

●2005年（平成17年）

- 3.31 150日間貯留保管済みFFPの供給開始
4. 1 第6代所長に土田嘉昭就任
群馬県献血メールクラブの開始
- 7.29 6ヶ月間（180日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
11. 1 第7代所長に遠藤敬一就任

●2006年（平成18年）

3. 1 成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施
- 7.13 群馬県立県民健康科学大学のオープン献血会場を皇太子殿下がご視察
第42回献血運動推進全国大会開催（群馬県総合スポーツセンター）
サンデン株式会社より血液運搬車 日産エクストレイル1台寄贈
富士重工業株式会社群馬製作所より血液運搬車 スバル フォレスター1台寄贈
群馬県病院協会、（社）群馬県医師会、（社）群馬県歯科医師会、（社）群馬県薬剤師会、（社）群馬県看護協会より器材運搬車 いすゞ エルフ1台寄贈
- 8.28 日赤ポリグロビンN注5% 2.5g/50mLの販売開始
- 9.15 日赤ポリグロビンN注5% 0.5g/10mL、日赤ポリグロビンN注5% 5.0g/100mLの販売開始
- 9.23 保存前白血球除去された成分採血由来新鮮凍結血漿製剤の供給開始
10. 1 献血カードの導入
検査業務が埼玉県赤十字血液センターへ集約
- 10.26 血小板成分採血における保存前白血球除去及び初流血除去の実施



●2007年（平成19年）

- 1.16 全血採血由来赤血球製剤の保存前白血球除去及び初流血除去の実施
- 3. 3 国際ソロブチミスト前橋より血液運搬車スバル インプレッサ1台寄贈
- 8. 1 保存前白血球除去された全血採血由来新鮮凍結血漿製剤の販売開始
- 11.14 有効期間「採血後4日間」に変更となった血小板製剤の供給開始

●2008年（平成20年）

- 2. 8 血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法（CLEIA法）へ変更（同年8月全国で導入）
- 7.21 輸血用血液製剤の新バーコード表示による製造開始
- 7.23 初流血除去を実施した成分採血由来新鮮凍結血漿の供給開始
- 8. 新NATシステムへ切り替え（HIV-1グループ0及びHIV-2の検出も可能）

●2009年（平成21年）

- 1.29 前橋出張所改装工事竣工
- 2.11 前橋出張所「前橋ハートランド」10周年記念イベント開催（於 ユナイテッド・シネマ前橋）
- 3.10 移動採血車おとおね3号（4ベッド）を整備
- 3.15 糖尿病関連検査（グリコアルブミン検査）の開始
- 4. 1 第8代所長に小泉武宣就任
高崎出張所（高崎熱血倶楽部）の定休日が第4月曜日に変更
- 4.23 移動採血車おとおね2号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 11.23 第1回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.28 血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビンN5%静注5g/100mLの販売開始。他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始

●2010年（平成22年）

- 1.27 1980年から1996年の英国滞在歴の献血制限が「1日以上」（1泊以上）から「通算1ヶ月以上」（31日以上）に緩和

- 2. 5 血小板製剤及び成分採血由来血漿製剤の販売名の変更に伴い、（照射）濃厚血小板-LR「日赤」と（照射）濃厚血小板HLA-LR「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については6ヶ月間（180日間）貯留保管後、順次供給開始
- 2.13 高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計1台寄贈
- 5.31 血液センター2階間仕切り改修工事竣工
- 11.23 第2回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.14 高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止
- 12.15 高崎出張所高崎駅献血ルームHarmony（JR高崎駅東口3階イーサイト内）業務開始
- 12.28 血球計数検査サービス（8項目）を200mL全血献血へ拡充開始



高崎駅献血ルームHarmony

●2011年（平成23年）

- 2.15 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 7 移動採血車おとおね7号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 4. 9 東日本大震災対策支援要員として職員を派遣（計5回）
- 7.27 赤十字アルブミン5%静注12.5g/250mLの販売開始
- 8.16 群馬県より〔平成23年度献血・骨髄ドナー登録推進業務（緊急雇用創出事業）〕委託を受託（9.1実施）
- 11.23 第3回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

沿革

●2012年（平成24年）

- 4. 1 広域事業運営体制の開始（1部 1データセンター 6課3出張所 19係）改組
- 8. 6 献血血液の検査基準の変更
輸血後のB型肝炎対策として「HBc抗体（C.O.I.）1.0以上12.0未満かつHBs抗体価200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施
- 10. 1 シャーガス病に係る安全対策開始
- 11.23 第4回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



●2013年（平成25年）

- 1.16 「献血の同意説明書」の導入
- 1.26 日赤ポリグロビンN10%静注5g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注10g/100mLの販売開始
- 2. 4 太田出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事開始
- 3. 8 災害救護機材配備（タブレット型PC端末5式）
- 3.25 災害救護資材配備（雨衣・防寒着）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事完了
- 5. 2 太田出張所太田献血ルーム業務開始
- 9. 3 成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を450mLから480mLに変更。
3つの製剤規格容量を整数倍へ（120mL、240mL、480mL）
- 11.24 第5回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



太田献血ルーム

●2014年（平成26年）

- 1.28 災害救護機材配備（ノート型PC端末2台、デジタルカメラ1式）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 第9代所長に林 泰秀就任
- 5.11 血液事業情報システム稼働（供給部門）
- 6.25 血液事業情報システム稼働（全部門）
- 8. 1 個別NAT検査開始
- 9.29 関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始
- 10. 1 検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始
- 11.24 第6回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

●2015年（平成27年）

- 2.23 前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 災害救護資材配備（発電機1台）
- 2.28 前橋出張所前橋献血ルーム業務開始
- 3.10 災害救護資材配備（スノーダンプ5台、スコップ10本、ストーブ3台）
- 3.25 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血漿分画製剤の全製剤販売終了



前橋献血ルーム

- 7. 8 北関東高校献血打合せ会開催
- 11.22 第7回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 2016年（平成28年）
 - 2. 2 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備
 - 2.19 災害救護資材配備（ADバン）
 - 3.20 献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於 イオンモール高崎）
 - 3.30 移動採血車おとね9号を廃車
 - 4. 1 ALT検査による製品除外基準の変更
血液センター広報誌Yell創刊
 - 9.13 照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給開始
 - 11.23 第8回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
 - 12.16 災害救護資材配備（スチールラック）
- 2017年（平成29年）
 - 2.27 血小板採血調整システム稼働
 - 3.20 第2回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
 - 3.24 災害救護資材配備（非常食）
 - 4. 1 献血者の不規則抗体スクリーニングの検査法変更
 - 5.18 国際ソロプチミスト前橋より献血広報車スバル インプレッサ1台寄贈
 - 11.18 全社統合情報システム導入
 - 11.26 第9回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 2018年（平成30年）
 - 3.21 第3回キッズ献血（於 イオンモール高崎）

第41回日本血液事業学会総会 発表演題

会期：平成29年10月31日～11月2日 会場：福岡国際会議場

「PCコントローラー導入による分割血小板採血率向上の取り組み」

北爪寿明、稲村靖彦、津久井敏彦、六本木由美、黒澤悦子、永井恵子、都丸冷子、町田孝一、庄山隆、林泰秀

「街頭献血における専任推進担当者配置による一稼働の向上」

青木康浩、高橋義幸、高橋健太、町田有希、須田聖、大竹宏和、渡辺進、都丸冷子、町田孝一、庄山隆、林泰秀

「血色素量不足による献血不適格者減少への試み～ヘモグロビン測定手順の見直し～」

正田ひで子、六本木由美、都丸冷子、庄山隆、林泰秀

「分割血小板採血率向上への採血部門の取り組み」

長澤君枝、六本木由美、永井恵子、黒澤悦子、北爪寿明、津久井敏彦、稲村靖彦、都丸冷子、庄山隆、林泰秀

「ハンドブックと指導者導入による新人教育の効果」

高橋星子、川島敦子、星野幸、金井純子、田所理絵、樺澤玲子、六本木由美、都丸冷子、松村泰男、庄山隆、林泰秀

組織体制

群馬県赤十字血液センター



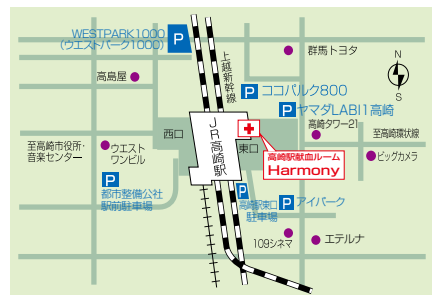
- 所在地 〒379-2154
群馬県前橋市天川大島町
2-31-13
- 開設年月日 昭和59年12月20日
- 敷地面積 3,835.73 ㎡
- 建物の構造 本館棟／鉄筋コンクリート造
地下1階 地上2階
(塔屋付)
別館棟／鉄骨造 地上3階
(塔屋付)
- 延床面積 4,452.8㎡

高崎駅献血ルームHarmony

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 325.58㎡
- ベッド数 11ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒370-0849 群馬県高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階 イーサイト内
TEL027-327-8139 FAX027-327-8143



前橋献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 310.19㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒371-0805 群馬県前橋市南町3-9-5 (大同生命ビル1F)
TEL027-220-5522 FAX027-220-5523

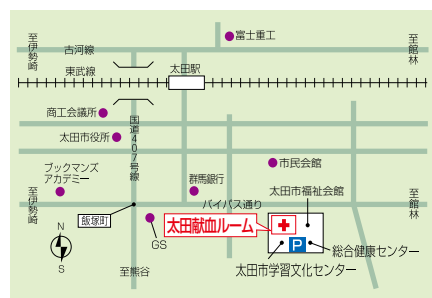


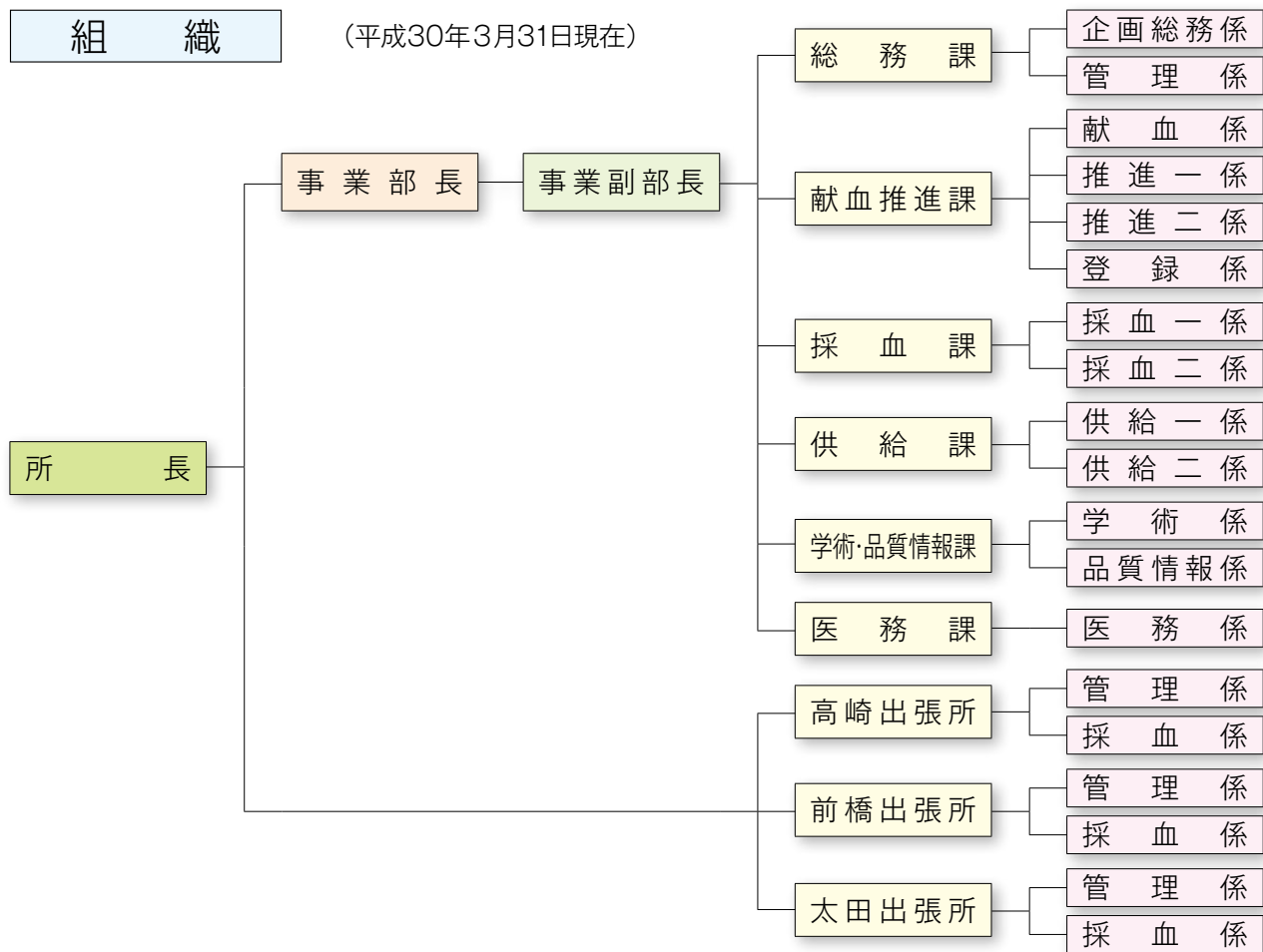
太田献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 396㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549-2 (太田市学習文化センター前)
TEL0276-60-3300 FAX0276-49-3300

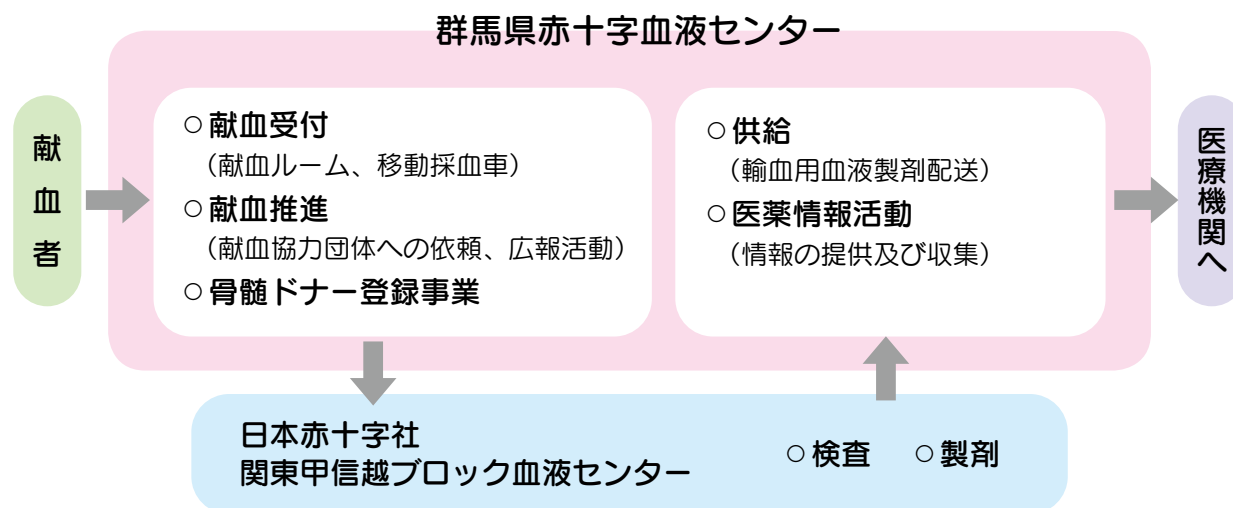




職 員 (平成30年3月31日現在)

医 師	薬 剤 師	検査技師	看 護 師	事務職員	合 計
1	2	1	31	60	95

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



献血の概況

平成29年度、県民の皆様のご理解とご協力をいただき、県内で延べ85,245名の献血協力をいただきました。おかげさまで県内の各医療機関へ輸血用血液製剤を滞りなく供給することが出来ました。また、血漿分画製剤用血漿の国内需給に向けその確保に努めることが出来ました。

献血者数については、受付者数 96,022名（前年度比98.6%）、献血者数 85,245名（前年度比98.4%）という結果でした。

献血種類別の内訳は全血献血者数 56,941名（前年度比97.9%）、成分献血者数 28,304名（前年度比99.4%）となっております。

詳細をみてみますと、全血献血者数のうち400mL献血者数は 53,984名（前年度比97.6%）、200mL献血者数は 2,957名（前年度比103.3%）となりました。200mL献血を1単位として換算すると 110,925単位（前年比97.7%）の確保をすることができました。また、全血献血中の400mL献血構成比は94.8%（前年比0.3%減）となりました。前年比で献血者数は減少しているものの400mL献血の高単位製剤を十分に確保することができたため医療機関の需要に応えることができました。

成分献血者数のうち血小板成分献血者数は 9,204名（前年度比87.8%）でした。昨年度実績比で減少していますが、これは血小板成分献血の採血後の分割が可能になったことによるものであり、需要には充足しております。血漿成分献血者数は 19,100名（前年度比106.1%）でした。

献血推進対策としては「400mL全血献血、成分献血の推進」、「献血協賛企業の増加」、「複数回献血者（メールクラブ会員）の促進」及び「若年層献血者確保」を重点的に努めました。更に、県内のスポーツ団体との協力体制を構築し、キャンペーン活動やEメール、SNSを活用する等の対策を講じて広く県民の皆様へ啓発を行うことができました。

今後も引き続き輸血用血液製剤の「更なる安全性の向上」及び「安定的な確保」を最重要課題として取り組んでまいります。

1 献血ルーム

■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Harmony」

「高崎駅献血ルームHarmony」は、交通やショッピングに便利なJR高崎駅東口ローサイト内に平成22年12月15日に開設しました。駅構内という好立地にあり、内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたとなっております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいております、日々多くの献血者の方で賑わっております。

363日開設：受付者数 19,745名

献血者数 18,297名（1日平均献血者数50.4名、施設別構成比21.4%）

献血種類別では全血献血者数が8,194名（構成比44.8%）、内400mL献血者8,070名（400mL献血率98.4%）成分献血者数が10,103名（構成比55.2%）

■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内2番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル1階に、平成10年9月1日に開設いたしました。また平成27年2月28日にロビーを陽だまりのような空間をイメージにリニューアルいたしました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

363日開設：受付者数 16,777名

献血者数 15,469名（1日平均献血者数は42.6名、施設別構成比18.1%）

献血種類別では全血献血者が5,997名（構成比38.8%）、内400mL献血者5,809名（400mL献血率96.9%）成分献血者が9,472名（構成比61.2%）

■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に、全国的にも珍しい単独平屋建ての県内では1番の広さを誇る献血ルームとして、平成14年4月10日に開設いたしました。平成25年5月2日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に習い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

363日開設：受付者数 16,909名

献血者数 15,651名(1日平均献血者数43.1名、施設別構成比18.4%)

献血種類別では全血献血者が6,922名（構成比44.2%）、内400mL献血者6,847名（400mL献血率98.9%）成分献血者が8,729名（構成比55.8%）

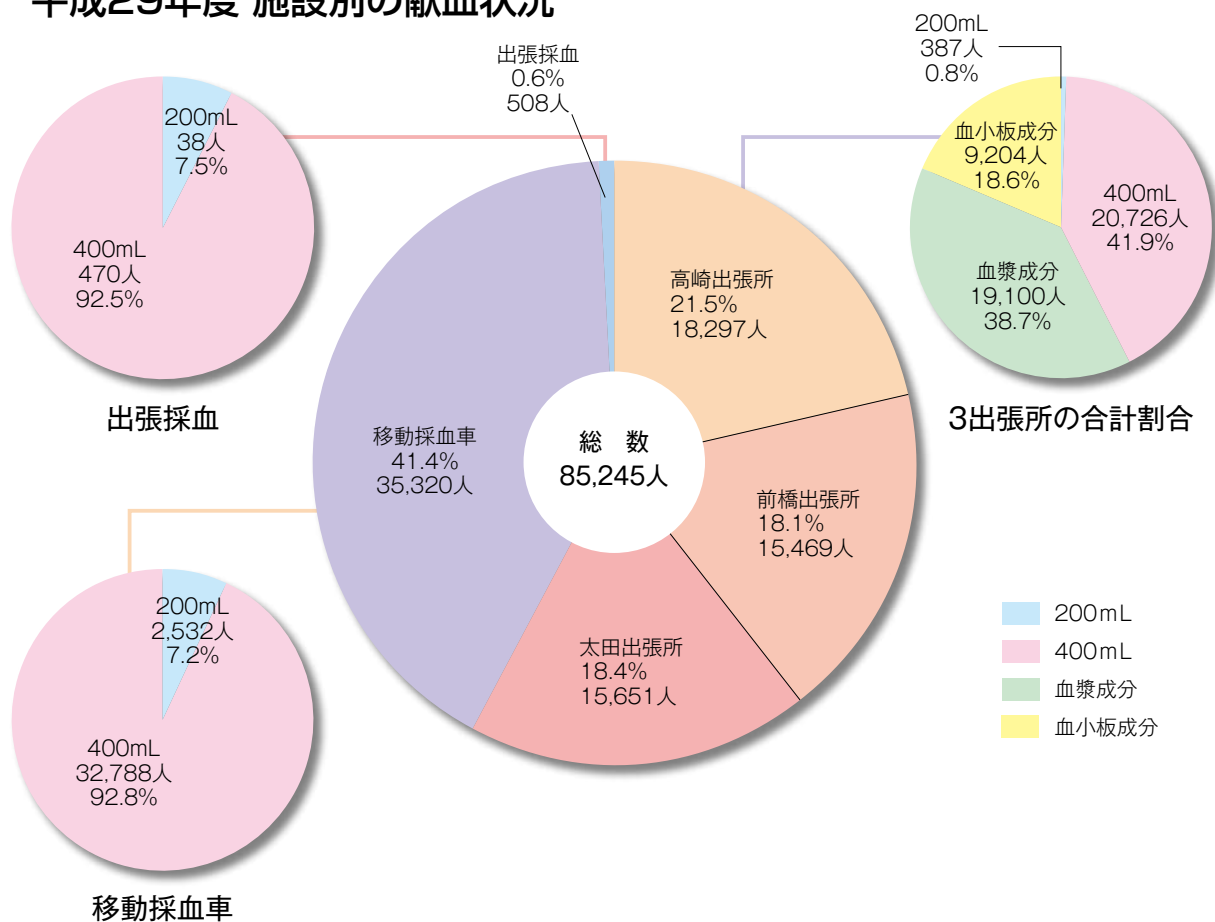
2 移動採血車

全血献血者の受入れを主として4台の移動採血バスで運用をしています。延べ796台が県内の各献血会場で献血者の受入れを行いました。受付者数は41,968名、献血者数は35,320名（1台平均44.4名）でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は92.8%で前年度比0.2%の増加となりました。

3 出張採血

移動採血バスの配車が困難な場所において会議室等を献血会場にして実施する出張献血を、10会場で行いました。受付者数は623名、献血者数は508名でした。

平成29年度 施設別の献血状況



献血推進の概況

広報・キャンペーン活動

1. スポーツ団体とのコラボ事業

(1) ザスバクサツ群馬

ア 献血推進ポスター作成

イ 献血応援スペシャルマッチ

期日 平成29年5月13日(土)

会場 正田醤油スタジアム群馬

内容 献血(献血協力者へコラボグッズ
処遇)、献血PR(試合前所長挨拶、
横断幕・競技場電光掲示板による
PRなど)

協力 群馬県学生献血推進連合、
群馬県青年赤十字奉仕団、日本赤十字社群馬県支部



(2) パナソニックワイルドナイツ

ア 献血推進ポスター作成

イ パナソニックワイルドナイツ試合会場献血

期日 平成29年12月3日(日)

会場 太田市総合運動公園陸上競技場前

内容 献血協力者へワイルドナイツグッズを処遇、
場内アナウンスによる献血の啓発



2. 第8回夏休み親子献血教室

期日 平成29年7月27日(木)・7月28日(金)

会場 群馬県赤十字血液センター前橋出張所・太田出張所・関東甲信越ブ
ロック血液センター埼玉製造所

内容 献血から輸血用製剤が出来るま
での基礎知識の学習、
献血ルームの見学(献血模擬体験)、
埼玉製造所の見学(製造部門、検査部門)

後援 群馬県教育委員会・株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社

協力 群馬県・前橋市・太田市・日本赤十字社群馬県支部



3. 第9回献血感謝デー

期日 平成29年11月26日(日)

会場 けやきウォーク前橋

内容 献血功労者表彰式、献血実施、救急法講習、疑似献血体験、健康
測定(血管年齢・骨の健康度チェック)、アトラクション(ジャン
ボダーツ・バナナDEシュート)、献血クイズ、骨髄バンクドナー
登録会、ライブ、サーカス学校パフォーマンスなど

後援 株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社

協力 群馬県・日本赤十字社群馬県支部・

群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団



4. 全国学生クリスマス献血キャンペーン

期日・会場 平成29年12月10日（日） スマーク伊勢崎
12月16日（土） ジョイフル本田千代田店
12月17日（日） けやきウォーク前橋
内容 学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び献血協力者へオリジナルグッズを処遇
主催 群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団



5. はたちの献血キャンペーン

期間 平成30年1月1日（月・祝）～平成30年2月28日（水）
(1) 「はたちの献血」イベント
期日 平成30年1月14日（日）
会場 スマーク伊勢崎
内容 献血実施、パナソニックワイルドナイツ選手による血液センター1日所長及び広報（戸室達貴選手、ベンガンター選手）、県内大学生によるパフォーマンス（書道、ダンス、アカペラ）、大道芸パフォーマンス、学生ボランティアによる献血広報・献血啓発資材（使い捨てカイロ等）の配布など
主催 群馬県
協力 パナソニックワイルドナイツ・日本赤十字社群馬県支部・群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団・共愛学園高等学校・県立伊勢崎商業高等学校・伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校



6. キッズ献血

期日 平成30年3月21日（水・祝）
会場 イオンモール高崎
内容 献血模擬体験
参加者に記念品を進呈・キッズ献血カードの発行（専門店の特典あり）
後援 群馬県・群馬県教育委員会・株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社
協力 日本赤十字社群馬県支部・群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団・高崎商科大学附属高等学校
特別協賛 イオンモール高崎

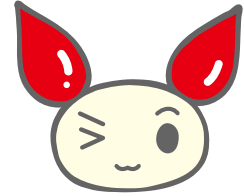


7. 広報誌 Yeil（エール）

年3回発行

献血メールクラブ（複数回献血クラブ）

「献血メールクラブ」では、登録をいただいた会員の方々へ適宜メールを配信し、献血の要請などを行っております。血液の不足時や、医療機関から緊急要請があった場合にも、即時に情報発信ができるため、救命のネットワークとしてその重要性は、年々高まっております。その他、県内の献血会場、キャンペーンやイベント情報などのお知らせを行うなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとして活用しています。



平成29年度は、会員の方全員へのお知らせメールは15回の配信を行いました。依頼・要請メールは1,305回の配信を行い、延べ439,210名の方への配信をし15,985名（応諾率3.6%）の方にご協力をいただいております。

「献血メールクラブ」会員の特典として、献血後の検査成績が閲覧できるサービスなどを実施しております。今後は継続的に会員数増加に努めるとともに、サービス内容を充実させ、会員にとって利便性の高い情報ツールにして参ります。

献血メールクラブ会員数 24,247人（平成30年3月31日現在）

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。

※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



献血サポーター

骨髄ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髄データセンター事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成3年度に国からの依頼を受け、骨髄データバンク登録事業者として中央骨髄データセンター及び各地域骨髄データセンターを設置し、骨髄バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。

新たな動きとして日本赤十字社は、平成25年10月1日に国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年1月1日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髄ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髄バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髄バンクドナー登録を推進しております。

平成29年度、群馬県内の骨髄ドナー登録者数は448名でした。その内、献血バスと併行した骨髄ドナー登録会（献血併行型登録会）では、292名の登録をいただいております。

平成29年度 骨髄ドナー登録受付状況

単位：人

受付施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Harmony	2	3	3	10	2	7	5	5	5	5	4	11	62
前橋献血ルーム	4	7	9	2	4	4	5	3	3	5	8	1	55
太田献血ルーム	4	4	2	6	1	2	4	5	4	3	2	2	39
献血併行型登録会	22	36	28	26	15	27	22	24	24	11	28	29	292
合計	32	50	42	44	22	40	36	37	36	24	42	43	448

平成29年度 骨髄ドナー登録取消状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	21	18	15	8	20	17	13	25	17	20	28	28	230

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

骨髄ドナー登録状況

群馬県内 〔全国〕

総登録者数：7,539人 〔731,039人〕

実登録者数：5,137人 〔483,880人〕

登録取消者数：2,402人 〔247,159人〕

平成30年3月31日現在

群馬県内の骨髄ドナー登録受付窓口（固定施設）

○前橋献血ルーム	}	〔受付時間〕 10：00～12：00
○高崎駅献血ルーム Harmony		14：00～17：00
○太田献血ルーム	}	〔休業日〕 年末年始

検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ供給課で保管しています。

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



- 開設年月日 平成24年2月14日
- 所在地 〒355-0071
埼玉県東松山市大字新郷493-1
- 敷地面積 9,787.08 m²
- 建物の構造 鉄骨造地上3階建
- 延床面積 11,947.31 m²

関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東信越7県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県、山梨県）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

●検査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。

検査項目

- ・血液型検査：
A B O血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査
- ・感染症関連検査：
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体)、C型肝炎ウイルス検査(HCV抗体)、エイズウイルス検査(HIV-1、2抗体)、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19検査
- ・生化学検査：
ALT、γ-GTP、総蛋白(TP)、アルブミン(ALB)、アルブミン対グロブリン比(A/G比)、コレステロール(CHOL)、グリコアルブミン(GA)
- ・血球計数検査：
赤血球数(RBC)、ヘモグロビン濃度(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)、平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)、白血球数(WBC)、血小板数(PLT)
- ・核酸増幅検査：
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

このほか、必要に応じてHLA関連検査(HLA抗原検査・HLA抗体検査・血小板抗体検査)、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。



検査作業



検査機器

●製 剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。

このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っており、301件の要請がありました。

献血由来の血漿分画製剤は、平成27年3月末日を以って販売中止となりました。

平成29年度の総供給数は79,868本で、前年度に対しては3,386本減少（前年度比95.9%）しました。供給単位数では284,139単位で、前年度※に対しては12,091単位減少(前年度比95.9%)しました。

※比較のため前年度の血漿製剤単位数を平成29年度からの単位換算に変更して算出

1. 血小板製剤

供給単位数は151,375単位で、前年度に対して6,021単位減少(前年度比96.2%)でした。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、総供給数に占める血小板製剤の構成比は53.3%と最も高くなっています。全国的な需要傾向(全国平均前年比99.7%)に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

平成28年9月13日から、照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給を開始しました。

2. 血漿製剤

供給単位数※は30,250単位で、前年度に対して2,694単位減少(前年度比91.8%)でした。全国的な需要傾向(全国平均前年比99.4%)に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

※平成29年度より200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位、成分献血由来製剤を4単位として換算

3. 赤血球製剤

供給単位数※は102,514単位で、前年度に対して3,376単位減少(前年度比96.8%)でした。全国的な需要傾向(全国平均前年比100.2%)に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

※200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位として換算

4. 全血製剤

平成29年度は供給がありませんでした。



医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術・品質情報課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられており、平成30年1月には副作用・感染症における調査方法が一部変更されました。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用して頂くよう活動しています。

安全かつ適正な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として委員会の活動を支援しています。平成29年度の委員会活動として、安全に輸血を行うためには看護師の役割が重要であることから輸血関連看護師会を新たに設置し、学会認定・臨床輸血看護師を中心に活動を開始しました。県内の輸血実態調査については、手術室での輸血をテーマに調査を行い、第12回群馬県合同輸血療法委員会では、その調査結果の報告や医療機関における手術室での輸血の現状及び問題点について報告して頂きました。また、血液製剤の適正使用を推進する活動として、委員会による医療機関訪問と学術講演会（日本赤十字社北海道ブロック血液センター 紀野修一先生による「患者中心の輸血医療（PBM）の推進」）を行いました。



医療関係者への情報提供



医療機関での勉強会

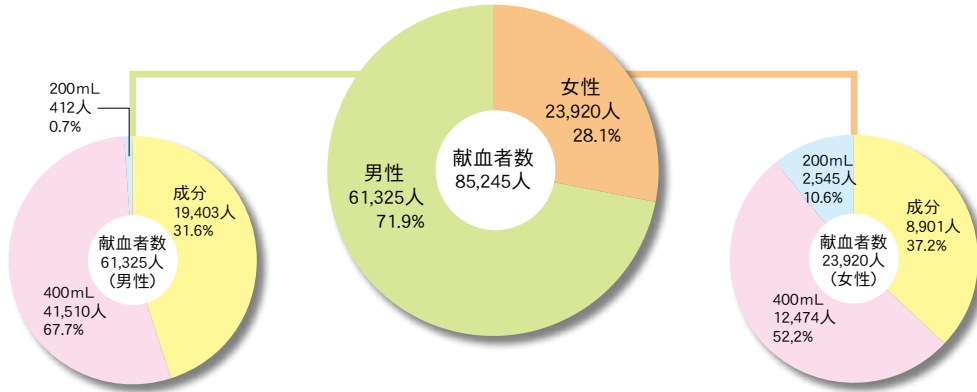


群馬県合同輸血療法委員会

統計資料

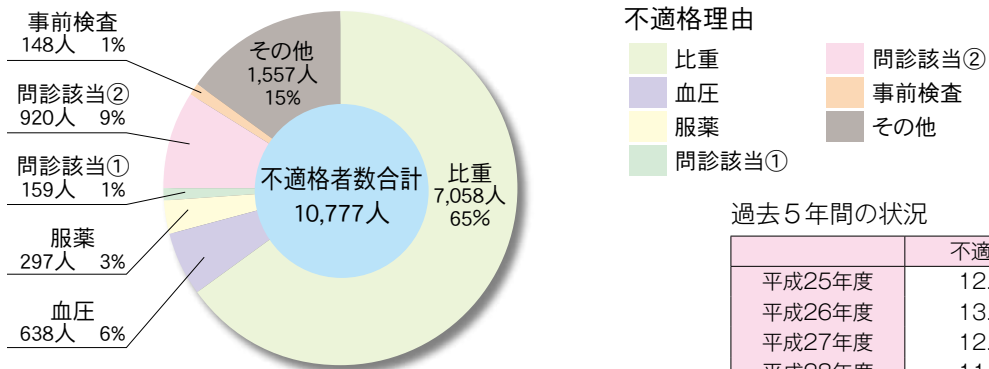
平成29年度 献血状況

年月	項目	献血ルーム		採血車		出張		計			
		受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	男	女
平成29年度計		53,431	49,417	41,968	35,320	623	508	96,022	85,245	61,325	23,920
			28,304		0		0		28,304	19,403	8,901
			20,726		32,788		470		53,984	41,510	12,474
			387		2,532		38		2,957	412	2,545



献血出来なかった人の状況

平成29年度 献血不適格者数	不適格者 10,777人 11.2%	適格者 85,245人 88.8%	受付者数 96,022人
-------------------	-----------------------	----------------------	-----------------



過去5年間の状況

年度	不適格率
平成25年度	12.8%
平成26年度	13.2%
平成27年度	12.9%
平成28年度	11.0%
平成29年度	11.2%

比 重 … 血液比重又は色素量が採血基準を満たさない場合

血 圧 … 血圧が採血基準を満たさない場合

服 薬 … 注射・服薬の状態が問診の基準を満たさない場合

問診該当① … B型C型肝炎ウイルス保有者、輸血歴・臓器移植歴のある人、C型肝炎の既往、慢性B型肝炎、原因不明の肝炎の既往、乾癬の治療にチガソン服用、梅毒の既往、マラリアの既往、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の関連事項、HIVの関連事項、シャーガス病・アフリカトリパノソーマ症、リーシュマニア症の既往、バベシア症、vCJDに関連した欧州滞在歴

問診該当② … 問診該当①以外に問診上不適格な理由がある場合（体調不良、海外帰国後4週間以内等）

事 前 検 査 … 血算・心電図・検尿等で不適格の場合

そ の 他 … 献血者の意思変更、時間無し、血管が細いなどの理由で不適格の場合

献血不適格者の状況

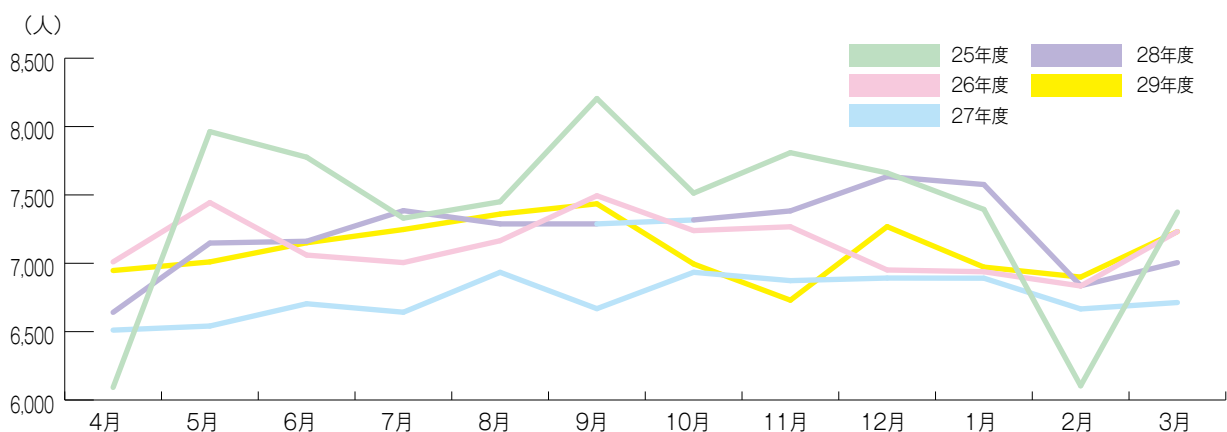
不適格理由	比 重	血 圧	服 薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合 計
男	1,400	487	210	93	538	106	561	3,395
女	5,658	151	87	66	382	42	996	7,382
合 計	7,058	638	297	159	920	148	1,557	10,777

平成29年度 市町村別献血者数

	人口 (A)	受付者数	全血献血者数			成分献血者数			総献血者数 (B)	献血率 (B)/(A)
			200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合計	1,951,183	96,022	2,957	53,984	56,941	9,204	19,100	28,304	85,245	4.4%
前橋ルーム		16,777	188	5,809	5,997	3,070	6,402	9,472	15,469	
高崎ルーム		19,745	124	8,070	8,194	3,103	7,000	10,103	18,297	
太田ルーム		16,909	75	6,847	6,922	3,031	5,698	8,729	15,651	
管内 合計		42,591	2,570	33,258	35,828	0	0	0	35,828	
前橋市	334,299	8,111	438	6,305	6,743	0	0	0	6,743	2.0%
前橋市保健所管内 計	334,299	8,111	438	6,305	6,743	0	0	0	6,743	2.0%
高崎市	369,149	7,913	583	6,022	6,605	0	0	0	6,605	1.8%
高崎市保健所管内 計	369,149	7,913	583	6,022	6,605	0	0	0	6,605	1.8%
渋川市	75,922	1,038	141	732	873	0	0	0	873	1.1%
榛東村	14,286	286	4	254	258	0	0	0	258	1.8%
吉岡町	21,651	715	18	601	619	0	0	0	619	2.9%
保健福祉事務所管内 計	111,859	2,039	163	1,587	1,750	0	0	0	1,750	1.6%
伊勢崎市	210,194	7,516	116	6,135	6,251	0	0	0	6,251	3.0%
玉村町	36,195	558	27	428	455	0	0	0	455	1.3%
保健福祉事務所管内 計	246,389	8,074	143	6,563	6,706	0	0	0	6,706	2.7%
安中市	56,675	952	39	772	811	0	0	0	811	1.4%
保健福祉事務所管内 計	56,675	952	39	772	811	0	0	0	811	1.4%
藤岡市	64,323	1,394	72	1,121	1,193	0	0	0	1,193	1.9%
上野村	1,131	25	0	24	24	0	0	0	24	2.1%
神流町	1,731	49	5	34	39	0	0	0	39	2.3%
保健福祉事務所管内 計	67,185	1,468	77	1,179	1,256	0	0	0	1,256	1.9%
富岡市	48,541	834	62	652	714	0	0	0	714	1.5%
下仁田町	6,931	111	19	74	93	0	0	0	93	1.3%
南牧村	1,777	15	0	15	15	0	0	0	15	0.8%
甘楽町	12,852	51	4	38	42	0	0	0	42	0.3%
保健福祉事務所管内 計	70,101	1,011	85	779	864	0	0	0	864	1.2%
中之条町	16,034	226	4	193	197	0	0	0	197	1.2%
長野原町	5,278	137	14	106	120	0	0	0	120	2.3%
嬭恋村	9,279	141	11	118	129	0	0	0	129	1.4%
草津町	6,357	82	2	68	70	0	0	0	70	1.1%
高山村	3,513	29	0	26	26	0	0	0	26	0.7%
東吾妻町	13,222	569	50	464	514	0	0	0	514	3.9%
保健福祉事務所管内 計	53,683	1,184	81	975	1,056	0	0	0	1,056	2.0%
沼田市	46,840	1,161	104	865	969	0	0	0	969	2.1%
片品村	4,140	70	4	58	62	0	0	0	62	1.5%
川場村	3,561	141	2	118	120	0	0	0	120	3.4%
昭和村	7,089	108	2	88	90	0	0	0	90	1.3%
みなかみ町	18,285	369	36	284	320	0	0	0	320	1.8%
保健福祉事務所管内 計	79,915	1,849	148	1,413	1,561	0	0	0	1,561	2.0%
太田市	221,637	3,980	277	3,112	3,389	0	0	0	3,389	1.5%
保健福祉事務所管内 計	221,637	3,980	277	3,112	3,389	0	0	0	3,389	1.5%
桐生市	110,548	2,338	306	1,711	2,017	0	0	0	2,017	1.8%
みどり市	50,082	606	23	459	482	0	0	0	482	1.0%
保健福祉事務所管内 計	160,630	2,944	329	2,170	2,499	0	0	0	2,499	1.6%
館林市	75,141	1,160	107	863	970	0	0	0	970	1.3%
板倉町	14,509	306	28	216	244	0	0	0	244	1.7%
明和町	10,982	224	17	161	178	0	0	0	178	1.6%
千代田町	11,115	393	5	317	322	0	0	0	322	2.9%
大泉町	41,770	746	45	630	675	0	0	0	675	1.6%
邑楽町	26,144	237	5	194	199	0	0	0	199	0.8%
保健福祉事務所管内 計	179,661	3,066	207	2,381	2,588	0	0	0	2,588	1.4%

人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」平成30年4月1日現在

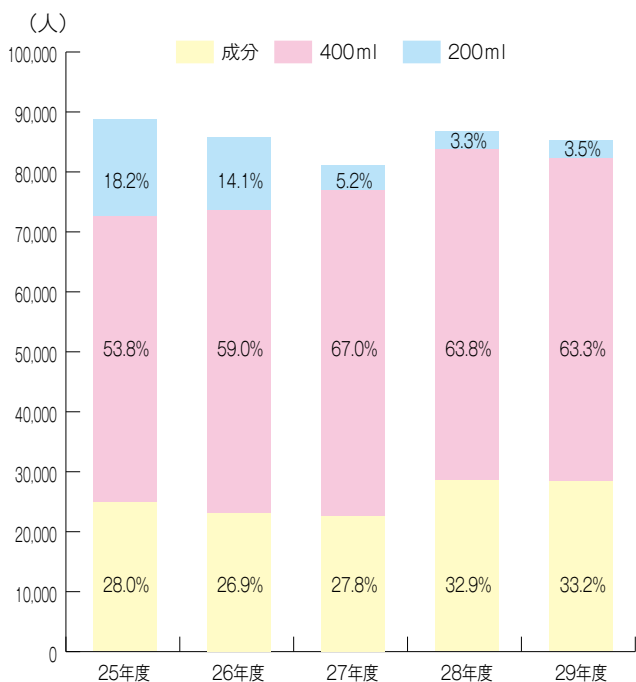
過去5年間の月別献血状況



(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度別月平均
25年度	6,092	7,963	7,776	7,330	7,450	8,205	7,513	7,809	7,661	7,394	6,104	7,375	88,672	7,389
26年度	7,010	7,444	7,060	7,005	7,165	7,494	7,239	7,267	6,951	6,938	6,834	7,232	85,639	7,137
27年度	6,511	6,541	6,704	6,642	6,934	6,668	6,934	6,873	6,892	6,891	6,666	6,713	80,969	6,747
28年度	6,641	7,148	7,161	7,385	7,288	7,288	7,317	7,383	7,634	7,576	6,836	7,005	86,662	7,222
29年度	6,947	7,010	7,150	7,247	7,360	7,435	6,995	6,730	7,268	6,972	6,899	7,232	85,245	7,104
月別平均	6,640	7,221	7,170	7,122	7,239	7,418	7,200	7,212	7,281	7,154	6,668	7,111		

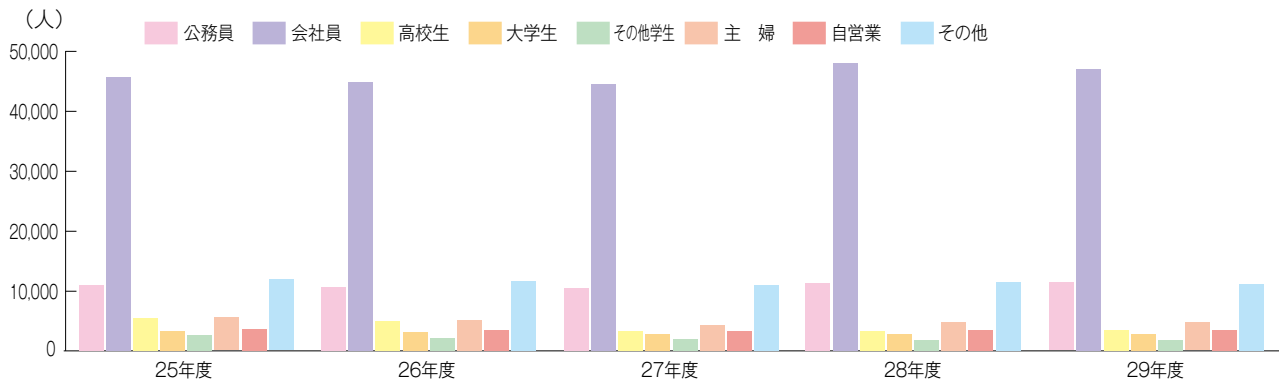
過去5年間の採血別献血者状況



(人)

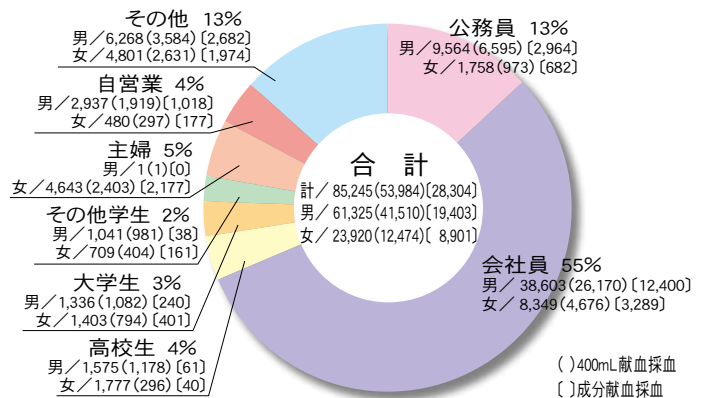
種別 \ 年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
成分	24,794	23,018	22,517	28,487	28,304
400ml	47,726	50,501	54,280	55,312	53,984
200ml	16,152	12,120	4,172	2,863	2,957
合計	88,672	85,639	80,969	86,662	85,245

過去5年間の職業別献血者状況

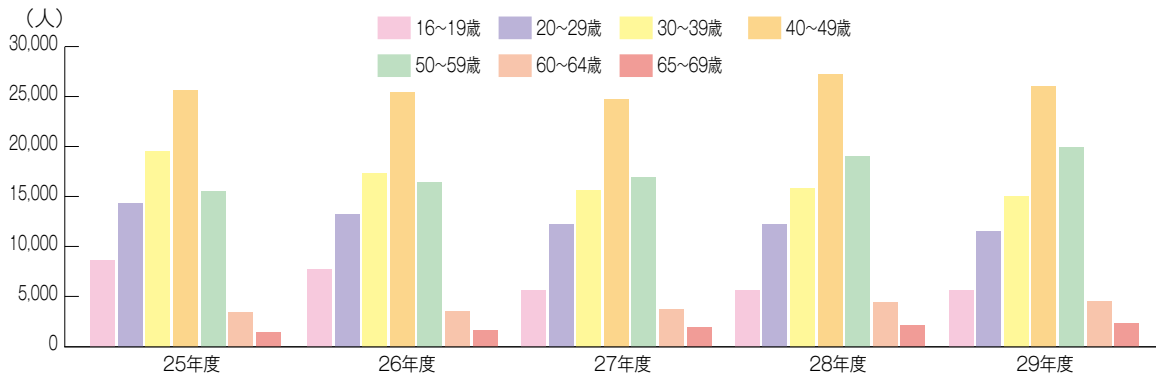


職業別	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公務員	10,852	10,629	10,456	11,316	11,322
会社員	45,625	44,786	44,406	48,002	46,952
高校生	5,393	4,898	3,179	3,180	3,352
大学生	3,305	3,156	2,705	2,762	2,739
その他学生	2,606	2,145	1,865	1,747	1,750
主婦	5,496	5,019	4,236	4,813	4,644
自営業	3,562	3,491	3,256	3,449	3,417
その他	11,833	11,515	10,866	11,393	11,069
合計	88,672	85,639	80,969	86,662	85,245

■平成29年度職業別献血者数

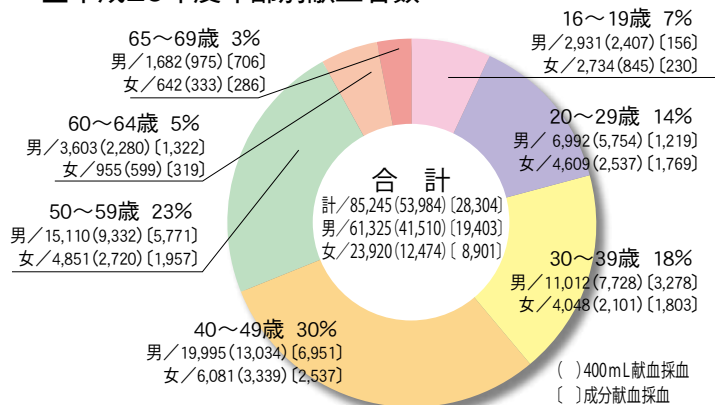


過去5年間の年齢別献血者状況



年齢別	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
16~19歳	8,645	7,800	5,610	5,650	5,665
20~29歳	14,368	13,277	12,255	12,223	11,601
30~39歳	19,565	17,322	15,698	15,889	15,060
40~49歳	25,617	25,464	24,755	27,233	26,076
50~59歳	15,588	16,489	16,949	19,066	19,961
60~64歳	3,436	3,598	3,793	4,420	4,558
65~69歳*	1,453	1,689	1,909	2,181	2,324
合計	88,672	85,639	80,969	86,662	85,245

■平成29年度年齢別献血者数



*平成11年4月1日より60~64歳のあいだに献血経験のある方に限り65~69歳の献血が可能となった。

血液型別供給本数(管内)

(単位：本)

全血製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	人全血液-LR「日赤」		WB-LR-1	0	0	0	0
		WB-LR-2	0	0	0	0	0
照射人全血液-LR「日赤」		Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-2	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0

(単位：本)

赤血球製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	赤血球液-LR「日赤」		RBC-LR-1	107	104	146	54
		RBC-LR-2	1,030	811	525	142	2,508
照射赤血球液-LR「日赤」		Ir-RBC-LR-1	1,252	1,002	721	360	3,335
		Ir-RBC-LR-2	18,143	14,145	9,694	4,851	46,833
洗浄赤血球液-LR「日赤」		WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射洗浄赤血球液-LR「日赤」		Ir-WRC-LR-1	0	16	2	0	18
		Ir-WRC-LR-2	13	6	4	0	23
解凍赤血球液-LR「日赤」		FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射解凍赤血球液-LR「日赤」		Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
合成血液-LR「日赤」		BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
照射合成血液-LR「日赤」		Ir-BET-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-BET-LR-2	0	11	0	0	11
	合計		20,545	16,095	11,092	5,407	53,139

*平成26年8月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LRは、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」Ir-RBC-LRへ変更。

(単位：本)

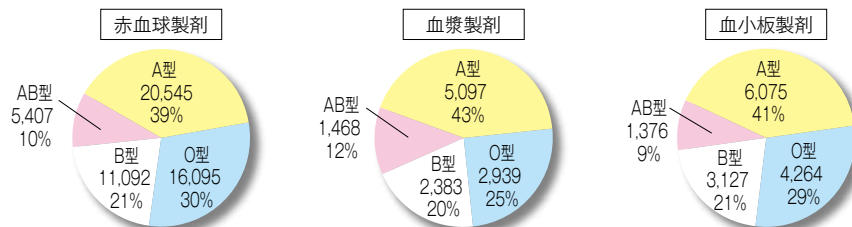
血漿製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」	120	FFP-LR 120	244	112	138	34
240		FFP-LR 240	3,447	1,994	1,508	908	7,857
480		FFP-LR 480	1,406	833	737	526	3,502
	合計		5,097	2,939	2,383	1,468	11,887

*平成25年9月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Apは、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480へ変更。

(単位：本)

血小板製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	濃厚血小板-LR「日赤」		PC-LR-1	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	0	0	0	0	0
		PC-LR-10	107	150	66	18	341
		PC-LR-15	0	15	1	0	16
		PC-LR-20	0	0	0	0	0
照射濃厚血小板-LR「日赤」		Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	76	29	27	0	132
		Ir-PC-LR-10	5,548	3,805	2,883	1,269	13,505
	Ir-PC-LR-15	30	14	6	1	51	
	Ir-PC-LR-20	143	97	26	57	323	
濃厚血小板HLA-LR「日赤」		PC-HLA-LR-10	4	11	7	1	23
		PC-HLA-LR-15	1	0	0	0	1
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」		Ir-PC-HLA-LR-10	97	25	86	29	237
		Ir-PC-HLA-LR-15	4	2	2	1	9
		Ir-PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
照射洗浄血小板-LR「日赤」		Ir-WPC-LR	47	116	23	0	186
照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」		Ir-WPC-HLA-LR	18	0	0	0	18
	合計		6,075	4,264	3,127	1,376	14,842

*平成28年9月より、照射洗浄血小板-LR「日赤」、照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」供給開始

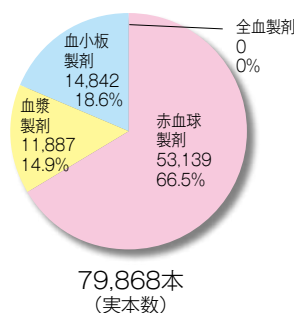


血液製剤種類別供給数(管内)

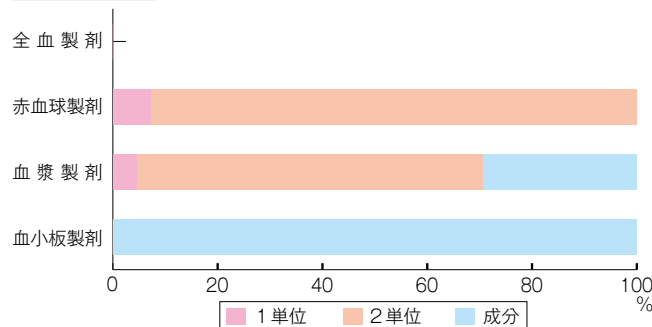
(単位：本)

	1単位製剤	2単位製剤	成分				本数合計	換算本数
			5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	
赤血球製剤	3,764	49,375	0	0	0	53,139	102,514	
血漿製剤	528	7,857	3,502	0	0	11,887	30,250	
血小板製剤	0	0	132	14,310	77	14,842	151,375	
合計	4,292	57,232	3,634	14,310	77	79,868	284,139	

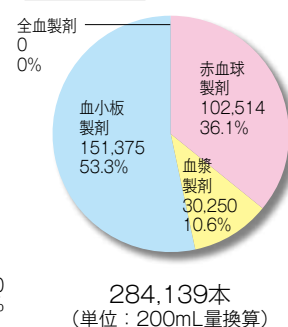
本数合計



献血由来別



換算本数

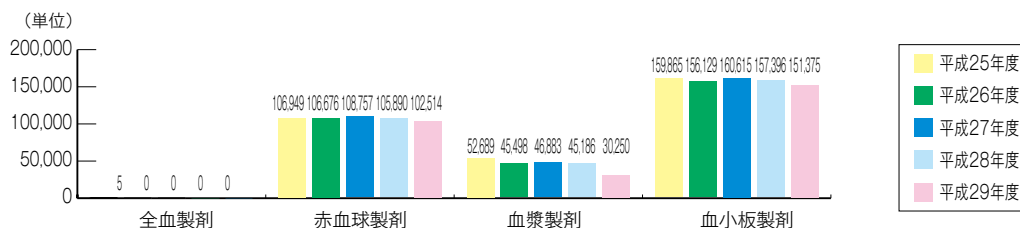


輸血用血液製剤の推移 (管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成25年度	319,508	5	106,949	52,689	159,865
平成26年度	308,303	0	106,676	45,498	156,129
平成27年度	316,255	0	108,757	46,883	160,615
平成28年度	308,472	0	105,890	45,186	157,396
平成29年度	284,139	0	102,514	30,250	151,375

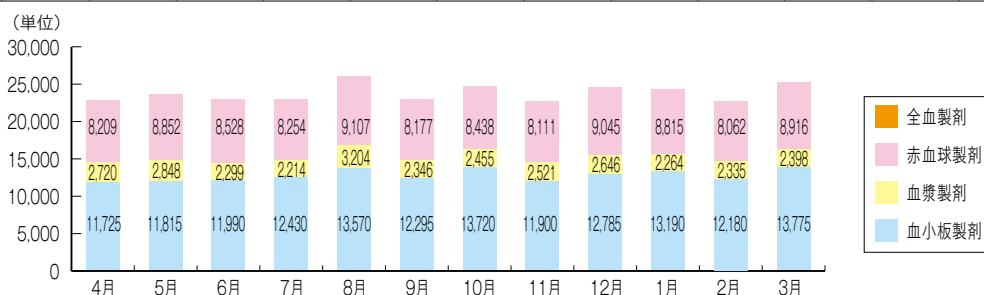
※平成29年度より血漿製剤の単位換算を変更



月別供給本数(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	102,514	8,209	8,852	8,528	8,254	9,107	8,177	8,438	8,111	9,045	8,815	8,062	8,916
血漿製剤	30,250	2,720	2,848	2,299	2,214	3,204	2,346	2,455	2,521	2,646	2,264	2,335	2,398
血小板製剤	151,375	11,725	11,815	11,990	12,430	13,570	12,295	13,720	11,900	12,785	13,190	12,180	13,775
合計	284,139	22,654	23,515	22,817	22,898	25,881	22,818	24,613	22,532	24,476	24,269	22,577	25,089



平成29年度 表彰 (団体のみ表記)

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「献血推進県民大会」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。

(敬称略)

■厚労大臣 表彰状

株式会社明電舎 太田事業所

■厚労大臣 感謝状

NSKステアリングシステムズ株式会社 総社地区
理研鍛造株式会社
株式会社科学飼料研究所 高崎工場
高崎自動車整備大学校
群馬県立高崎北高等学校
千代田工業株式会社
株式会社トッパンパッケージプロダクツ 群馬センター工場
群馬県立新田暁高等学校

■群馬県献血推進特別功労者 (団体)

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
高崎量子応用研究所
株式会社久保田製作所 藤岡工場
学校法人群馬常磐学園 常磐高等学校
学校法人関東学園 関東学園大学附属高等学校

■群馬県献血推進協議会長感謝状

国際ロータリー第2840地区 前橋ロータリークラブ
一般社団法人 群馬県トラック協会青年部会
株式会社大光銀行 前橋支店
群馬セキスイハウス会
NTTインフラネット株式会社埼玉事業部群馬支店
株式会社スヴェンソン高崎スタジオ
パナソニック ワイルドナイツ
株式会社富士通フロンテックシステムズ
群馬県消防学校
日新電機株式会社前橋製作所
群栄化学工業株式会社群馬工場
高崎東部工業団地協同組合

太陽誘電株式会社 高崎グローバルセンター
社会福祉法人はるな郷
市光工業労働組合 藤岡支部
群馬県立沼田高等学校
プロファ設計株式会社
株式会社群馬トヨタ総合センター
株式会社ソフィア
桐生市消防本部
大泉警察署
株式会社アドバンテスト群馬R&Dセンタ
上之町商店街
株式会社富永調査事務所
公益財団法人群馬慈恵会 松井田病院
シオノケミカル株式会社高崎工場
株式会社ジョイフル本田千代田店
株式会社シムラリネンサプライ
東洋水産株式会社関東工場
ライオンズクラブ国際協会333-D地区第4R第2Z
伊勢崎絆ライオンズクラブ
NPO法人 Good Life Style

■日本赤十字社社業功労者社長特別表彰

群馬県野球連盟太田支部
株式会社プライムプレイスマーク伊勢崎
ユニー株式会社けやきウォーク前橋
イオンモール株式会社イオンモール高崎
イオンモール株式会社イオンモール太田

■献血団体 金色有功章 (20年以上)

株式会社ジーシーシー
株式会社ナカヨ 群馬工場
高崎市等広域消防局

高崎市立高崎経済大学附属高等学校
医療法人松沢会 希望館病院
医療法人 関越中央病院
学校法人平方学園 明和県央高等学校
光山電気工業株式会社 群馬工場
社会医療法人輝城会沼田脳神経外科循環器科病院
富士通株式会社館林システムセンタ
株式会社アドバンテスト 群馬工場

■献血団体 銀色有功章 (15年以上)

群馬総合ガードシステム株式会社
株式会社藤井繊維 サントノーレ高崎店
NEOMAXエンジニアリング株式会社
株式会社IHIEアロスペース
株式会社JSテック
株式会社加藤製作所 群馬工場
ボッシュ株式会社 太田工場
ボッシュ労働組合 太田工場
DIC株式会社 館林工場
DICグラフィックス株式会社 群馬工場
日本精工株式会社 ニードル軸受生産統括部 榛名工場
河本工業株式会社

■献血団体 群馬県支部長感謝状金枠 (10年以上)

特定医療法人群馬会 群馬病院
医療法人社団日高会 白根クリニック
医療法人大誠会 内田病院
医療法人山育会 日新病院
学校法人平成学園 東群馬看護専門学校
学校法人太田アカデミー 太田医療技術専門学校
館林高等看護学院
東京ガス株式会社 群馬支社
医療法人群栄会 田中病院
学校法人茶屋四郎次郎記念学園 東京福祉大学・大学院
一般社団法人 群馬県損害保険代理業協会
株式会社栗原医療器械店

■献血団体 群馬県支部長感謝状銀枠 (5年以上)

医療法人海宝会 海宝病院
群馬合金株式会社
大和ハウス工業株式会社 群馬支社
大和ハウス工業株式会社 両毛支店

■献血推進団体 銀色有功章 (15年以上)

ライオンズクラブ国際協会333-D地区第4R第2Z
伊勢崎佐波ライオンズクラブ
ライオンズクラブ国際協会333-D地区第4R第2Z
伊勢崎中央ライオンズクラブ
ライオンズクラブ国際協会333-D地区第3R第1Z
榛名ライオンズクラブ

■献血推進団体 群馬県支部長感謝状銀枠 (5年以上)

ライオンズクラブ国際協会333-D地区第3R第2Z
高崎城ライオンズクラブ

平成29年度迄の献血記録

項 目	年 月 日	献血者数	摘 要	備 考	
開設以来延献血者数	平成30年3月末日	4,438,643人	自昭和37年11月 至平成30年3月		
開設以来母体延献血者数	平成10年8月末日	228,910人	自昭和37年11月 至平成10年8月		
開設以来献血ルーム延献血者数	平成30年3月末日	907,068人	自平成5年10月 至平成30年3月		
開設以来採血車延献血者数	平成30年3月末日	3,192,291人	自昭和37年11月 至平成30年3月		
開設以来出張延献血者数	平成30年3月末日	110,374人	自平成2年4月 至平成30年3月		
年 間 最 高 人 数	昭和60年度	131,336人			
月 間 最 高 人 数	昭和60年7月	13,420人		配車台数114台	
母 体 一 日 最 高 人 数	平成7年1月21日	168人			
献血ルーム一日最高人数	平成10年9月1日	140人	前橋ハートランド オープンニング		
出張採血一日最高人数	平成3年1月7日	230人	県 庁		
採血車一日最高人数	昭和60年11月19日	861人		配車台数5台	
採血車一台最高人数	昭和55年6月13日	311人	渋川高等学校		
市民献血一日最高人数	昭和59年2月16日	356人	桐 生 市	配車台数3台	
町民献血一日最高人数	昭和63年9月9日	175人	大 間 々 町		
官庁献血一日最高人数	平成2年1月5日	327人	県 庁	配車台数2台	
事業所献血一日最高人数	昭和60年2月27日	596人	沖電気高崎事業所	配車台数3台	
大学献血一日最高人数	昭和60年6月26日	311人	群馬大学教育学部	配車台数2台	
高校献血一日最高人数	昭和61年1月20日	546人	高崎工業高等学校	配車台数3台	
団体献血一日最高人数	昭和54年8月29日	420人	大間々ライオンズクラブ	配車台数2台	
施設別年間最高献血本数	市 民 献 血	昭和59年度	2,877人	桐 生 市	配車台数延29台
	町 民 献 血	平成4年度	941人	玉 村 町	配車台数延14台
	村 民 献 血	昭和61年度	724人	笠 懸 町	配車台数延5台
	官 庁 献 血	平成元年度	1,339人	県 庁	配車台数延9台
	事 業 所 献 血	昭和61年度	3,589人	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
	大 学 献 血	昭和60年度	1,257人	群馬大学教育学部	配車台数延10台
	高 校 献 血	平成元年度	1,197人	樹 徳 高 校	配車台数延6台
	団 体 献 血（主催）	昭和57年度	1,774人	立正佼成会高崎協会	配車台数延16台
	団 体 献 血（協力）	平成11年度	4,202人	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

あ ゆ み 平成 30 年 7 月

編 集 群馬県赤十字血液センター総務課

発 行 群馬県赤十字血液センター

印 刷 上毎印刷工業株式会社

群馬県赤十字血液センター 〒379-2154 前橋市天川大島町2-31-13
電 話 027-224-2118
<http://www.gunma-bc.org/>

 facebook.

はじめました!

QRコードをスキャンして
facebookページへアクセス!





日本赤十字社
Japanese Red Cross Society